

9 2009
September

弘前大学

学園だより

題字：遠藤正彦 学長

VOL.164



「萌芽」制作 教育学部学生 梁田 沙奈

I 特集 弘前大学創立60周年記念 — 2

記念式典式辞	2
学生代表祝辞	4
60周年記念歌	6
式典ボランティア	11
卒業生の声	13
60周年記念学生参加事業	15

II 研究室紹介 — 18

農学生命科学部	18
生物学科動物生態学分野	

III 新任教員自己紹介 — 20

IV けいじばんコーナー — 20

V 編集後記 — 22

特集

弘前大学創立60周年記念 I

記念式典 式辞



弘前大学は、昭和24年5月31日に創立されて以来、今年で満60年になりました。本日、その創立60周年記念式典を挙げるに当たり御案内致しましたところ、文部科学事務次官 銭谷眞美殿、青森県知事 三村申吾殿、弘前市長 相馬鋳一殿、本県選出国會議員の方々他、各界の多数のご来賓各位のご臨席を賜りました。御来賓方々のご臨席を大変光栄に存じ、衷心より厚く御礼を申し上げます。

弘前大学の創立から今日までの経緯と、これからの弘前大学についての決意を申し上げます。

弘前大学は、旧制弘前高等学校、青森師範学校、青森青年師範学校、青森医学専門学校及び弘前医科大学を包括校とし、文理学部、教育学部と医学部の三学部から成る大学として昭和24年創立されました。

しかし、弘前大学をはじめとして新製の国立大学は、第二次世界大戦直後のことで、その体制をつくることに大

変な苦勞を致しました。特に弘前大学は、その包括校の青森師範学校と青森医学専門学校とが、終戦直前に青森市で戦災にあつて全焼し、弘前市のご好意により、この弘前市に移転してきた直後であり、老朽化していた旧制弘前高等学校校舎、旧小学校校舎、旧陸軍の兵舎等を校舎としての出発でありました。

その後は、全国の国立大学がそうであったように、本学も戦後の疲弊した国土の中で、老朽化した校舎や教育・研究機材の不足などの困難を、当時の文部省のご指導と地域のご支援の下に、歴代の学長を中心に教職員の努力により乗り越えてきました。この間、本学は、三度にわたる火災と附属病院の病室の一部が水没するという水害とに見舞われ、また地震の被害も受けました。全国を風靡した大学紛争では、授業ボイコット、校舎の封鎖や警官隊の導入などもありました。

こうした状況の中で、本学は青森県

内唯一の国立大学として少しずつ発展してきました。平成3年の大学設置基準の大綱化の下に、教養部の廃止に端を発した本学の大改革が始まり、学部間のシャッフルを経て、現在の体制、即ち、学部と大学院の学生の総収容定員6,561名を擁する、人文学部、教育学部、保健学科を含む医学部、理工学部、そして農学生命科学部の5学部と、それぞれに直結した大学院修士または博士課程と独立専攻の大学院地域社会研究科とからなる7大学院という完成度の高い中規模総合大学としての体制ができあがりました。

平成16年4月、全国の国立大学は一斉に設置形態を変えて国立大学法人化されました。国立大学法人化は言うまでもなく、国の直接的管理を離れて、一法人として自主・自律性を高めて自らが管理運営することでありませぬ。しかし、地方大学としての弘前大学は、大学の持つ固有の資源に関する大学間格差と、地域の経済産業等の基盤に関する地域間格差とを背負つての出発でした。国立大学法人化の折、本学は教育と研究と社会貢献の3本柱を第一期の中期目標・中期計画に掲げました。本学は地元青森県を始めとする地域の自治体や企業等との包括協定を結び、これらの支援と文部科学省の強力な支援の下に努力した結果、その第一期中期目標・中期計画の実績評価につきましては、この国立大学法人化後大きく発展したと一定の評価を得るに至りました。

今、弘前大学は第二期中期目標・中期計画を策定中ですが、本学は本学の立地する青森県の特性を踏まえて、地域に根ざした教育と研究を土台に、地域社会の求める人材育成、そして世界に羽ばたく人材を育成するという方針が立てられています。即ち、青森県の

エネルギー基地としての一翼を担うべく青森市内に新設された“北日本新エネルギー研究センター”、これを中心とした自然エネルギー、世界自然遺産白神の近くに設置された我国最大規模の植物園“白神自然観察園”、これを中心とした地球温暖化・環境保全、文部科学省と青森県の強力な支援の下に立ち上がった我国初の緊急被ばく医療を担う“高度救命救急センター”、これを中心とした先進医療と地域医療、弘前大学構内に設置され我国最長のフーコーの振り子を持つ“サイエンス・パーク”と、これを中心とした小中高生の理科振興、食糧基地としての青森県を土台としての食育と食の安全、これらの5つのテーマを基本の柱とした本学の、第二期中期計画をたてることにしています。

今年の創立60周年は、人間でいう還暦であり、国立大学法人第一期中期目標の評価を受けて第二期へ向けてのステップであります。

この創立60周年記念事業は、学外に青森県三村申吾知事を名誉顧問、吉田豊前弘前大学長を会長、弘前大学同窓会 三上巽会長と弘前大学後援会 石戸谷忻一会長を副会長とする、弘前大学創立60周年記念事業後援会が設立され、この創立60周年記念事業を強力に支援していただきました。心からの御礼を申し上げます。

創立60周年記念事業については、後にその詳細が報告されますが、主なことを御紹介致しますと、本日のこの創立60周年記念事業は、記念式典を始めとして“学生参加”ということを中心にして進んでまいりました。創立60周年記念歌の制作、創立60周年記念誌等の他に、本学文京町キャンパス内に産学官連携事業の拠点となる総合ビル“コラボ弘大”が建設され、この一

階エントランスホールには、日展審査員であり我国の金工の第一人者である東京藝術大学長 宮田亮平先生により、記念モニュメントとして、金工作品“幸せのリング”が作製され、先程宮田先生の手により除幕式が行われました。宮田先生には本日の式典後の記念学術講演もお願いしてあります。

今年は本県の生んだ太宰治氏の生誕100年にも当たり、同氏は本学の前身・旧制弘前高等学校の卒業生でもありますので、この創立60周年記念事業に合わせて、太宰治氏にゆかりのある本学構内の旧制弘前高等学校外国人教師館の脇に文学碑を建立し、先程除幕式がとり行われました。

弘前大学は、昭和24年3学部からなる小さな地方の大学として発足しましたが、文部科学省、地元青森県及び弘前市の支援と、本学の先人達の血のにじむような努力の積み重ねにより、今日の姿にまで発展してまいりました。これまで本学の発展を支え、応援してこられた方々に、衷心から厚く御礼申し上げます。

この創立60周年記念式典を迎えみると、明らかに第二期中期目標への確固たる自信が生まれてきた様に思います。これからは、弘前大学のモットーである“世界に発信し、地域と共に創造する 弘前大学”を、より一層高くかかげ邁進致しますので、一層の御支援をお願い致します。この決意を新たに、式辞と致します。

平成21年6月6日

国立大学法人 弘前大学
学長 遠藤 正彦



学生代表 祝辞



私たちの弘前大学は、この5月31日、創立60周年を迎えました。

誠におめでとうございます。弘前大学の学生を代表いたしまして、ここに、お祝いの言葉を述べさせていただきたいと思います。

現在、私は、北東北の国立総合大学として、昭和24年の創設から、5万2千人を超える卒業生を社会に送り出し、60年という長い歴史と伝統に支えられ、豊かな自然に恵まれたこの弘前大学に学んでいることを、誇りに思うとともに、大きい喜びを感じております。

私は、2年前に初めて、この弘前の地に参りました。弘前の人々の穏やかさや温かさに触れ、ここで4年間を過ごすことに、期待で胸が高鳴ったのをよく覚えています。弘前は、四季の移り変わりを実感できる自然に囲まれており、ここに流れている穏やかな時間が、私は大好きで、安心します。

大学では、中学や高校とは異なった

専門的な勉学をすることで、視野が広がったと感じます。幅広い分野の学習とともに、自分の興味のあることについても、十分、深く学ぶことのできる弘前大学の環境は、素晴らしいと思います。

また、たくさんの部活やサークルがあり、課外活動が活発なので、多くの学生が充実した学生生活を送っております。私は、今年から就職活動が始まりますが、この弘前大学で学んだことを誇りとして、自信を持ってアピールすることが出来ると思います。

また私は、弘前大学学祭本部実行委員会委員として、2年間弘大祭に深く関わって参りました。その中で弘大祭が、多くの地域の方々から、どんなに楽しみにされていて、期待されているかを実感しました。これが、60年という長い年月の中で弘前大学が作り上げてきた、「地域に密着した大学」としての伝統なのだなと、しみじみ感じました。弘前大学とともに、弘大祭も今

年で60回目を迎えます。今年は例年以上に学生・地域が一体となった素晴らしい総合文化祭になることでしょう。

弘前大学は、今、この創立60周年を節目に、また新たな改革へと踏み出そうとしていると伺っております。それは、地域の特性を生かした教育・研究・社会貢献の推進と、人材育成、そして、さらにそれらをもって、国際社会の発展に寄与する、というものであります。

私は、弘前大学の60年の歴史と伝統の上に、さらに新しい時代へ向けての改革を進めているこの時期に在学していることの喜びを感じるとともに、「我が弘大」を誇りに思い、私たち学生も、それに参加したいと思っております。

弘前大学が、地域に開かれた大学として、いっそうの発展を願うとともに、21世紀の北東北に、そして日本に、さらに国際社会へと、新しい創造的実践を通して、学術、文化への貢献を果たしつつ発展して行く「弘大」であらんことを、心から祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

平成21年6月6日

弘前大学 人文学部
人間文化課程3年

萩原有希子





60周年記念歌

憧れの60周年記念式典



辻 茂

応募のきっかけ

私は夜ともなれば、週に2～3回カラオケに行く習慣が20年以上続いています。

そのカラオケ画面に、満開の桜やりんご園を擁した、美しい岩木山の風景が絶えず出て参ります。

それは、津軽の歌が如何に多くあり、如何によく歌われているかと言うことであって、一晩に3～4曲は出てくるのが普通です。

「津軽海峡冬景色」、「ソーラン渡り

鳥」、「津軽慕情」、「竹山物語」等々の外、最近では「津軽の春」にも、確か岩木山を望む画像が出ていたのではないかと思います。

私はいつの間にか、岩木山を中心とした弘前市の姿に、すっかり魅了されてしまっていたのです。

丁度その頃、「記念歌募集」を知り、応募する気になったものです。

作品完成への苦吟

弘前大学ホームページ、市勢要覧、観光パンフなどを参考に、詩作に取り組みました。

神々しい名山の風景に惚れて、熱病に罹ったように取り組んでみても、納得のいくものは容易に出来るものではありませんでした。

何が足りないのか、心を満たしきらないのです。今一つの処を越えることが出来ず、とうとう諦めてしまいました。

期限ぎりぎりになって、「孟母断機の教え」の通り、途中で投げ出したのは、その間の努力と人生は無駄に帰す

と痛感した時、忽然として想起するものがありました。

それは、我流囲碁必勝法の1つの項目、「進退窮まって道あり」でした。

そうだ、困り抜いてこそ道は開け、物は成るのだ。苦吟を経ずしては何物も成らないのだと悟り、再挑戦の上完成させたのでした。

憧れの弘前への旅

家内と娘を伴っての、片道11時間の弘前への列車の旅は、快適そのものでした。

弘前の街は想像していた通り、格調高い雄姿を湛える歴史と伝統の都市でした。

記念式典、記念歌披露、そして祝賀会は厳粛かつ華やかに催され、ご招待を戴いた私共3人は感激し、実に感銘深いものでした。

終わりに、弘前大学の益々のご発展と、皆々様のご健勝、ご多幸を心よりご祈念いたしながら、筆を擱きたいと思えます。ありがとうございました。

私の楽曲作りと式典に参加して



館内 聖美

「岩木の高嶺 仰ぐたび…」作詞された辻さんの歌詞を「すばらしいなあ…」と何度も読んでいたうちに、自然に旋律が浮かんできました。

私の曲作りはいつも大変速く、今回もレコーディングまでわずか2週間でした。でも、曲を作っている期間は精神的にとってもキツイです。寝ても覚めても、食事の用意の時も運転中も、ずっと曲の事ばかり考えています。いわば、完成するまでの産みの苦しみのようなものです。加えて、我が家には子供が二人。特に上の子は17才ですが、障がい

があり、食事もトイレもすべて私の介助なしではできません。曲作りの2週間は、わたしにとって曲限!? (笑) まさに極限状態でした。

今回の楽曲作りでとても悩んだのは、応募要項にあった「誰もが口ずさめる曲」というところでした。旋律的には、難しくはいけなけれど、記念歌というからにはお祝いの華やかさと、大学60周年の重み、格調の高さも欲しい。さらには、式典当日に合唱とオーケストラで演奏していただく事を考えると、どんな曲が似合うのか…。

出来上がった楽曲は、費やした時間は短くとも、考え抜いて、たくさんのごだわりを持って作った曲になりました。

特に自分が気に入っているのは、歌詞のサビ「今 弘大60年」の部分。歌詞にふさわしくそれを讃え、勇壮さも感じられる旋律が出来ました。

もうひとつ、実は間奏のところ。名曲「りんごのひとりごと」(♪わたしは真っ赤なりんごです お国は寒い北の

国～)の「りんご かわいい ひとりごと」の部分の模した旋律になっています。誰か気づいてくれるかな…と思っておりましたら、式典では安達先生の編曲によって、オケがそれは見事に朗々と歌い上げてくれました。大変嬉しく、感激いたしました!

式典当日、あいにく主人は出席できませんでしたが、2人の子供と両親とで、オケと合唱団の演奏に感動を分かち合いました。障がいを持つ娘は言葉は話せませんが、曲作りをずっとそばで見ているので、ダイナミックにアレンジされた曲の演奏に、手が痛くなる程拍手を送っていたようです。

今回、素晴らしい式典にこのような形で出席できて、本当に幸せでした。また、曲のアレンジをして下さった安達先生はじめ、合唱団、オケのみなさんには心からお礼申し上げます。弘前大学とのこのご縁を誇りに思います。

ちなみに、私は弘前から帰ってきて、早速、太宰治の「富嶽百景」を読み直しました…。(笑)

弘前大学創立60周年記念歌

「新たな明日へ」

作詞：辻 茂

作曲：館内 聖美

- 1 いわき たかみね あお 岩木の高嶺 仰ぐたび
わか えいき わ 若い英気が 湧いてくる
おお たか ころも 大きく高い 志持ち
さ はな たいりん 咲かせた花は 大輪の
いさお かお としつき 功は薫る 年月よ
いま ひろ だい しゅうねん 今 弘前大学60周年
あら あす と た 新たな 明日へ 飛び立とう
- 2 こじょう けんらん 古城のさくら 絢爛と
さと にぎ りんごの里の 賑やかさ
ゆた ひろ も 豊かな広い ころもち
ゆくては 前途果てない ふるさとの
みらい まな や 未来をひらく 学び舎よ
いま ひろ だい しゅうねん 今 弘前大学60周年
きらめく あす と た きらめく明日へ 飛び立とう
- 3 ひ ねぶたまつりの 灯がついて
わか ちしお も 若い血潮も 燃えてくる
つよ ころも たゆまぬ強い 精神持ち
こうりゅうひろ もん あ 交流広く 門を開け
せ かい とも あゆ ゆ 世界と共に 歩み行く
いま ひろ だい しゅうねん 今 弘前大学60周年
はる あす と た 遙かな明日へ 飛び立とう

弘前大学創立60周年記念歌楽曲「新たな明日へ」

作詞：辻 茂
作曲：館内聖美

♩ = 100

Soprano

Piano *mf*

4 *sempre legato* *mp*

S

Piano *mp*

いお わが きた のま たー かまう みり のの おひ

10

S

10

Piano

がのも わたし たいせい かく ぞう

13 *mf*

S

13

Piano *mp*

おた おた まがま くな たひつ かつよ いい いい くるり くるり もも

7

S

7

Piano

おんが うつ たん ひて わりわ かんが せい せい せい

16

S

16

Piano

おんが せい せい せい せい せい せい



S 19 *mp*

ねん さん さん さん さん さん さん さん さん

no. *mp*

S 28 *f*

ねん さん さん さん さん さん さん さん さん

Pno. *f*

S 22 *poco marcato mf*

さん さん さん さん さん さん さん さん

no. *poco marcato mf*

poco marcato

S 31 1. 2.

さん さん さん さん さん さん さん さん

Pno. 1. 2.

S 25

ま ひろ だ い ろ く じゅ う

no.

S 34

Pno. *mf*



Musical score for Soprano (S) and Piano (Pno.) starting at measure 37. The Soprano part has lyrics: う び た と う. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line and chords in the right hand.

Musical score for Soprano (S) and Piano (Pno.) starting at measure 40. The Soprano part is silent. The piano accompaniment includes the instruction *poco rit.* and a dynamic marking of *ff* (fortissimo).



弘前大学創立60周年記念式典学生ボランティアが参加

弘前大学創立60周年記念事業として6月6日(土)におこなわれた「太宰治記念碑除幕式」、「コラボ弘大施設披露及び金工作品除幕式」及び「記念式典」において学生37名がこの式典のために用意されたTシャツを着用し、ボランティア活動を行いました。

当日は、受付や式での補助をおこなったほか、午後から実施された記念式典では、記念品の袋詰めや式典出席者の場内誘導を行いました。





式典ボランティア



農学生命科学部
室 崎 文美子

今年で弘前大学は60周年を迎えました。ひとで言うところだとちょうど還暦にあ

たります。この記念の年に私は学生として在籍し、記念式典のボランティアスタッフとして参加いたしました。普段はテレビや新聞でお見かけする著名人もたくさんいらっしゃって、本当に貴重な体験ができました。

ボランティアスタッフとしての私の仕事は明るく大きな声であいさつをし、指定された座席までご案内するというものですが、大切な式典の玄関口を任されているという責任感はとても大きなものでした。このような式典に大学生が参加することはほとんどないので、その緊張感も同時に味わいました。

式典に参加したことで、大学が60周年を迎えることはとても長い道のりで、大きな意味をもっているのだと実感しました。また特別講演会として東京芸術大の宮田学長先生によるお話を聞くこともできました。60周年記念会館にあるイルカのモニュメントに対する想いも大変伝わってきました。

ボランティアスタッフとして記念式典に参加できたことは、私の大学生活のなかでも本当に貴重な思い出となりました。これからも弘前大学の一学生として誇りをもち、今後の大学生活も満喫していきたいです。

卒業生の声



葛西 法男

昭和54年度 人文学部卒

弘前大学人文学部経済学科を卒業したのが昭和54年3月、それからちょうど30年が過ぎた。

今年8月、卒業30年（就職して30年）を記念して、札幌市で同期会が行われた。卒業後初めて再会した人も多

弘前大学時代の思い出

く、30年前の面影が微かに残っている程度で、髪、腹の量(?)の変化率が高く、思い出すまでかなりの時間を要する人もかなりいた。

久しぶりということもあり、当日は最近の弘前市内の思い出の場所や、弘前大学キャンパスの写真で大いに盛り上がり、弘前大学に4年間在籍していた頃の話でもちきりとなった。

さて、私は昭和50年4月に弘前大学人文学部に入学したが、経済学科は105名で、当時はまだ受験が二期に別れており、授業料は年間36,000円の時代であった。

その頃の学生の出身地は北海道が圧倒的に多く、次に岩手県、宮城県であったと思う。私は地元の弘前南高校出身であるが、当時は経済学科の中で

津軽弁を使う学生が10%程度しかいなく、さらに教員の先生方も標準語を話すばかりで、地元にながら、アウェーの雰囲気です授業を受けたような気がする。特にゼミの時間になると“弘前”大学に在籍していながら、津軽弁をしゃべれない（もしくは言っても通じない）ことが辛く、大変であったことが今でも強く記憶に残っている。それが私の最高の大学時代の思い出となっている。

今でこそ、ビジネスの中では堂々と津軽弁を使って（たまに通じないこともあるが）いるが、これはまさしく30年の年の功以外の何物でもない。弘前大学での4年間は貴重。これからの人生、津軽弁でも十分通じる“びよん”！

卒業生の声

私の大学時代

鎌田 耕太郎

昭和48年度 教育学部卒

私が弘前大学教育学部に入学した年は大学紛争の盛んな頃で、東大入試がなかった。その当時1年生は教養課程に在籍していたが、1年次の後半には授業が成り立たなかった。後期末試験ができない状態で全員2年次への進級が危ぶまれたが、どのようにして皆進級できたのか定かではない。本部事務局の建物が学生に占拠され、排除のために機動隊が突入するなど、前代未聞の事態が多々あった。現在の大学会館付近には図書館が入った木造の建物があった。そこへは放課後、部活の練習に通った覚えがあり、講義棟の一部が図書館になっていたのだろう。同様に現在の図書館の西端付近には生協の書籍部の小さな建物があった。棚の本も

少なく、板を打ち付けただけの床だったと思う。

2年目に下宿から寮に移った。寮生活も高学年になると楽しかった。寮ではそれぞれの時節に行事があり、さまざまな奇行を見聞した。今と違って土曜日まで授業が組まれ、研究室の同期の7人で日曜ごとに先生と弘前近郊や西海岸へ地質調査に出かけた。その夜は先生のおごりでよく飲んだので、月曜1コマ目の専門の授業は皆でよくサボった。研究室の仲間や先生、寮の仲間とはよく議論した。教育学部の北門付近にはプレハブ平屋の生協食堂があり、昼食時の混み合う時間には外に長い列がはみ出していた。研究室のすぐそばだったので、60円のラーメンを時々おやつ代わりに食べに行った。大学生生活の仕上げには、卒論として未知の土地へ地質調査にでかけた。農家に泊めてもらい、最初は藪をかきわけ露

頭のありそうな川沿いを辿った。目の前に白いマムシを見つけてしばらく動けなかったこともあった。手入れされた杉林は歩きやすく、ペルム系のスレートが多かった。歩きなれると森林基本図に記入するデータが増えていったが、調査範囲が広がるばかりで卒論発表会が近付いても地質図としての体裁が見えてこないのは辛かった。

大学生活ではエネルギーを発散する場がたくさんあり、経験した大小の諸事は、社会に飛び込む通過儀礼のようなものだったのだろう。教育学部に職を得て学生と接することになり、かつての自分たちの大学生活と比較してしまいうこともあったが、最近では比べる目安もなくなってきた。それまで家族に守られ小中高と集団の中からはみ出さないようにしてきた今の若者たちにとって、大学卒業後の社会とのギャップは果てしなく大きいと思う。

卒業生の声

今、弘前大学を想う



佐々木 幸雄

昭和56年度 理学部
平成元年度 医学部

最初に弘前大学に入学した36年前は学内のあちこちに自治会、有志による学内、社会の問題に対する立て看板があり、演説、ピラ配りが頻繁に行われ、学生集会も多く、単純に勉強したいと思っていたに学生には迷惑な事も多々ある状態でした。当時の授業料は今と比べものにならないほど安く、生活費もさほど必要とせず、経済的に自立している学生も珍しくはありませんでした。現在の就職の困難さは過去と

は比べものにならないと言われるかもしれませんが、当時は第一次、第二次オイルショックがありました。それでも学生の多くは、就職は大学生活が終わった後の問題と考え、4年間の殆どを大学での活動や学問に費やすことができました。

最初に在籍した理学部物理学科の先生方には学問以外にも多くの事を教えて頂きました。学生運動で逮捕され、懲役刑が確定した学生に対する大学の処分に対し、退学後も学生を精神的に支援し、再起させた先生には良心の示し方を。多くの時間を学生と酒を飲み、語ることに裂いてくださった先生には何事も受け入れる優しさを。ドイツ語に堪能で、見事なリートを歌われる先生は講義にはいつも何も持たずにこられました。白いチョークのみで黒板を数式で満たしながら、簡単な仮説、原理から見事に難解な結論を導いていける先生には知性への憧れを。時計の様な正確さで毎日を規則正しく過ごされ、淡々と実験、講義をこなす先生には継続と謙虚さの大切さを。30

年以上経つと、思い出は心地よいものとなっていました。

弘前大学のこれまでの60年間の最大の功績は、多くの有能な人材を世に送り出し続けてきた事だと思っています。現代社会はいろいろな危機に直面しており、多くの分野で多種多様な人材が求められる時代となり、今後も大学の果たす役割は大きく、責任は重いと思います。しかし、教育より大学入学試験への画一的な対策を本分とした高校に通い、国民の経済格差拡大と国の高等教育への投資削減により、経済的弱者の子弟には狭き門となり、十分な教育環境を整えられなくなった大学に入り、学部によっては入学しても2年もすれば就活と称した企業巡りに追われ、大学での十分な活動、学問の時間さえ与えられずに世に送り出される学生が当たり前の時代となりました。これでは人材の育成は難しいと思いますが、大学にはこの問題を克服し、今後も多くの人材を世に送り出し、学生達がいい思い出をもてる存在で有り続けていて欲しいと願っています。

卒業生の声

大学時代の思い出



小林 勝

昭和51年度 農学部卒

大学を卒業して30年以上が過ぎた今、思い出というよりは教養課程よりも学部での3・4年生の頃の学生時代です。

私が所属した蔬菜花卉園芸教室は、

奥村教授、奥瀬助教授、嵯峨助手の教官3人体制でしたが、教授は花卉造園、助教授、助手は蔬菜の専門でした。教授は北大から赴任したばかりでしたが当時は造園が目新しさもあって学生の人気が高く、同期の8人の学生のうち6人が卒業研究に造園を希望し、私を含めた2人が蔬菜を希望しました。私は奥瀬助教授の指導で、スイカのマンガン過剰障害について、マンガンの吸収量と生理障害に対して鉄の吸収量が及ぼす影響といった実験をしました。前年からの継続実験で、マンツーマンの指導でしたからある意味厳しいものでしたが、生産農家が現実に困っている障害を解明するなど農家のためになる研究をするという考え方や、実験で覚えたスイカの接木や水耕栽培などの技術や方法などは、卒業してから現在まで植物に関わった仕事に就いてきた

ことの原点であると思っています。

さて、3年生と4年生は同じ学生控え室でそれぞれ専用の机を使用できることは今でも同じだと思いますが、当時は実験や講義の合間によくグラウンドへ出て3・4年合同でソフトボールをやったものです。もちろん3人の先生方もたまに一緒に楽しみましたが、やりすぎてもっと勉強しろと怒られたこともあります。収穫祭の時の試合で優勝し祝杯を挙げたことも、何年か前に、当時の賞状が教室の壁に張られているのを見て楽しい思い出としてよみがえりまえた。学生の皆さんには、研究に専念することはもちろんですが、先輩や後輩、先生方とのお付き合いをたいせつにし、今後社会人として活躍していただきたいものです

弘前大学創立60周年記念学生参加事業

弘前大学フィルハーモニー管弦楽団 「弘前大学フィルハーモニー管弦楽団創立40周年記念演奏会」

弘前大学フィルハーモニー管弦楽団による創立40周年記念演奏会が平成21年6月21日(日)に弘前市民会館で開催されました。

当日は、600人弱の来場者があり、第1部は、「春の声(ヨハンシュトラウス)」「道化師組曲(カバレフスキー)」「大学祝典序曲(ブラームス)」、第2部は、「ラブソディ・イン・津軽、遠き神々の物語(いずれも安達弘潮作曲)」を現役団員の他、OB・OGを加えた約100名で演奏しました。

今回は、クラシックのほかに津軽を題材とした音楽も演奏し、地域の方々を中心に幅広い年齢層の方により、クラシックを身近に感じて頂ける演奏会となりました。また、第2部の「遠い神々の物語」では、語り部に伊那かつべい氏を迎え、会場が一体となって物語を楽しみました。



また、平成21年11月22日(日)に弘前市民会館で第40回定期演奏会を

行う予定になっています。

劇研マップレス 「第112回新人公演」



弘前大学劇研マップレスによる第112回新人公演が平成21年6月27日(土)28日(日)に弘前市上瓦ヶ町にあるスペースデネガで開催されました。

今回の公演は、松本大洋脚本の「メザスヒカリノサキニアルモノ若しくはパラダイス」を星川深(人文学部2年)が演出し、2日間に約100名の来場者がありました。

公演後、劇研マップレスの代表者は、「今年度、入部した新人に大きな舞台を経験させてあげることができたこと。また、劇研マップレスとしても30周年公演として一つの足跡を残すことができた。」との感想があった。

探検部「北八甲田登山」

平成21年7月4、5日の2日間にわたった山行は、弘前大学体育会探検部の皆さんのお蔭で無事下山することが出来ました。

小屋泊まりのため、それぞれの持ち物もシェラフ等かなりの重量になりましたが、それ以上に探検部員は、テント、水、食料と我々一般参加者の分も持ってくれましたが、不満も言わず黙々と最後まで我々を導いてくれました。

初日は雨で、酸ヶ湯からの直登で汗と雨水でグチョグチョになりながらひたすら登り、毛無岱あたりから天候が回復して、高山植物を観ながら、大岳避難小屋着。昼食小休止後、井戸岳、赤倉岳を登り、北八甲田山を満喫しました。楽しみの夕食は、探検部員が調理してくれた炊き込み飯、スープ、缶詰と梅酒で親睦会と疲れも忘れま

2日目5時起床、探検部員調理の雑炊を腹に詰め、大岳に向け、出発。ガスが出ていましたが、頂上に無事到着。そして、無事下山後は、酸ヶ湯

泉で汗を流し、大学で解散しました。今回参加した者は、満足したと思います。探検部の皆さんに改めて、感謝申し上げます。（学生課 奈良岡康則）



邦楽愛好会「七夕コンサート」

弘前大学邦楽愛好会による七夕コンサートが平成21年7月11日(土)に弘前大学創立50周年記念会館みちの

くホールで開催されました。

今回の演奏会では、ポスターとチラシを作成し、地域の商店や公共施設

などにポスターとチラシの掲示をお願いした結果、ここ数年の間では最高の80人の来場者がありました。演奏会では、「六段の調べ」「かわいい踊り子」「元禄花見踊」の他4曲が演奏されました。

今回の演奏会で部員の及川さんは、「尺八も三味線も琴も全部演奏したので、緊張して胸がドキドキしました。でもアンケートの結果が良く、今後もやりがいを感じました。」と語りました。

また、平成21年12月19日(土)に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールでクリスマスコンサート行う予定となっています。



学生各位

本学は、今年創立60周年を迎えることとなり、学生参加の記念事業が各種計画されています。今後、それぞれの事業について実施要領等が公表されます。自分の興味のある事業に是非、参加してください。



弘前大学創立60周年記念学生参加事業

期間：平成21年5月24日～平成22年3月31日

☆アメフト部「アップルボウル」	5月24日(日) 弘前大学 多目的広場 対北里大学戦
☆学生記念植樹	6月6日(土) 10時 弘前大学 外国人教師館横
☆記念式典	6月6日(土) 14時 弘前文化センター ホール
☆弘前大学フィルハーモニー管弦楽団 創立40周年記念演奏会	6月21日(日) 16時 弘前市民会館
☆劇研マップレス新人公演	6月27日(土) 19時、28日(日) 14時 スペース・デネガ
☆北八甲田山登山	7月4日(土)～5日(日) 登山
☆邦楽愛好会 七夕演奏会	7月11日(土) 14時 50周年記念会館みちのくホール

☆言語力大賞コンテスト	6月公募開始 (9月下旬締切、10月27日発表)
☆北海道・東北学生競技ダンス対抗戦 & 60周年記念大会	10月4日(日) 弘前大学 第1体育館
☆記念登山 岩木山日帰り山行	10月10日(土)
☆総合文化祭	10月23日(金)～25日(日) 弘前大学文京キャンパス
☆美術部 関根展	11月11日(水)～13日(金) 50周年記念会館 会議室
☆学生シンポジウム	11月13日(金) 18時 50周年記念会館みちのくホール
☆書道クラブ 大学書道展	11月20日(金)～22日(日) 百石町記念館
☆弘前大学フィルハーモニー管弦楽団 定期演奏会	11月22日(日) 18時 弘前市民会館
☆スライドミュゼッグ 定期演奏会	11月30日(月) 19時 50周年記念会館みちのくホール
☆ジャズ研究会 Winter Concert	12月10日(木)～12日(土) 大学会館 大集会室
☆クラシックギタークラブ 定期演奏会	12月12日(土) 17時 50周年記念会館みちのくホール
☆邦楽愛好会 クリスマスコンサート	12月19日(土) 14時 50周年記念会館みちのくホール
☆弘前大学吹奏楽団 定期演奏会	12月25日(金) 16時30分 弘前市民会館

問い合わせ先

弘前大学学務部 学生課 学生支援グループ 内線 3112, 3113

※ 引き続き、学生参加事業の追加申請を受け付けています。

平成21年9月3日

II 研究室紹介

農学生命科学部 生物学科 動物生態学 佐原研究室



本研究室では、動物の生態・行動を主に「捕食・被食」の視点から研究している。

多くの動物の毎日の生活は、一方で「適切な種類の食物を、必要なだけ入手する」ことと、他方で「自分自身が他の動物のエサにされてはならない」ことの、しばしば矛盾する2つの大きな動機から成り立っている。動物たちはこの問題をどのように解決しているのだろうか。その視点から彼らの日常生活を調べることは興奮を伴う仕事である。

具体的に扱っている動物は、魚類と、魚食性鳥類とである。これまでに扱ってきた魚の生息場所は、近年に限っただけでも、溜池や水田・水路、河川、海岸の潮間帯など様々だが、いずれも私たちの比較的身近にあるものである。一方、魚食性鳥類にはサギ類やカイツブリ類、カワセミなどがあり、ひとことに「魚食性」と言っても、潜水するもの、浅い水域を歩くもの、ダイビングするものなど様々である。これらの鳥類もやはり目にする機会が

少なくないものたちばかりである。

研究の手法としては、野外で行うものと実験室で行うものがある。実験室で行う研究でも、解明すべき現象は野外で生じていることであり、そのことを念頭におきながら作業するわけである。

野外の仕事の基本は、とにかく現場でよく観察することである。このことを抜きにしては動物の生態の解明はできない。肉眼や双眼鏡・望遠鏡による目視観察は最重要であり、夜明け前から日没まで、野外調査地で一定時間おきに環境を測定しながら対象の動物を見ていることが毎年頻繁にある。

ビデオ録画もよく用いる。野生動物には昼夜ともに活動するタイプのもの決して少なくないし、動物たちが夜間をどう過ごしているかを知ることは非常に重要だが、目視での夜間観察には限界がある。しかし近年は赤外線投射機能のついたカメラが安価で利用できるので、昼夜を問わず録画が可能である。

それでも、録画にあたっては機材（電源を含めて）の設置場所に悩むことも多いし、悪天候や予想外の出来事に遭遇することもある。カメラによる連続録画のほか、動物を捕獲して電波発信機を装着し、個体の動きを追跡することもあるが、動物がどこへ行くのかは追跡して初めて分かることも多い。総じて、何が起きるか分からないところが野外研究に付きまとう問題であるが、だからこそ面白さも倍増すると言えよう。

室内実験も補助的に行うことがある。魚類の場合には水槽の中での飼育が容易であり、実験を行うことも比較的に楽である。室内の一定条件下ではどのような活動周期を示すのか、酸欠（野外の小規模な池では珍しい）が生じたとき、どのような反応を起こすのか、魚種によるその違いはどうか、捕食者が接近するとどのような行動を起こすのか、これらの実験結果は野外観察の結果と併せて、野外で実際に生じている現象の解明に役立っている。一方、鳥類は飼

育が難しいが、それでも可能な場合には、どのような種類のエサを選択的に捕食するのかという問題などに実験的に取り組んできた。

捕食者が近くにいた場合に動物の行動はどう変化するのだろうか、それは当の動物が野外で実際に示す行動と一致するのか、違うとすれば、その理由は何か、問題はどこまでいっても極めつくすことがない。

ところで、野外で動物の生態を調べていると必ず直面するのが保全問題である。自然は急速に変化しつつある。生息地の破壊や有害な外来種の持ち込みなど、かつては人間の身近に普通にいた生き物が次々にレッドリストに載る背景には深刻な状況

がある。単に動物の生態・行動を調べているだけでは自然は守れない。しかし、その生物の生物学を知らずに保全することもまた不可能である。現代は困難な課題をつきつけられている時代といえよう。ここから、青森県内にも何カ所か設定されている「ビオトープ」の問題にも関心を持つようになった。ビオトープの生物たちのありようと、そこに来訪する人間の行動も調査の対象である。

さらに、ここ何年かの野外調査地が主に水田地帯だったことから、溜池や水田にすむ動物をもう少し広く調べている。そこから、特に魚食性でなくとも溜池で繁殖する鳥類の生態や、カエル類の生態にも関心を持ち始

めている。

上記のことは私自身の関心事でもあるが、それだけではない。何よりも「自分が面白いと思うことをやる」ことが研究には最重要である。私自身の興味の及ぶ範囲内であれば、院生・学生自身が以前からやりたいと思っていたテーマを本人に追究してもらい、私は単なる助言者に留まることもある。

文献の読み合わせも大事である。野外の作業の忙しい時期にはなかなか時間を取るの難しいので、シーズンオフに集中して行っている。また、隣接する野生生物管理学研究室とは合同で学部学生のゼミを行っており、野外で人手の要るさいには相互に援助し合っている。



ゴイサギの巣にカメラ設置作業中

Ⅲ 新任教員自己紹介

理工学研究科



理工学研究科
助教

高橋 龍一

このたび7月より理工学部地球環境学科に助教として着任致しました高橋龍一と申します。よろしくお願ひします。名古屋から参りました。

まだ1、2ヶ月しか過ぎておりませんが、古い町並みの残る弘前は大変気に入っております。研究は宇宙理論

の研究をしております。

宇宙の膨張史や、重力、相対性理論に関連する研究をしております。

どうぞよろしくお願ひ致します。

農学生命科学部



園芸農学科
園芸農学コース
助教

田中 紀充

5月から農学生命科学部に着任いたしました。これまではリンゴの単為結果性(種なし)の機構、花芽形成および花器官形成遺伝子の機能について研究してきました。リンゴ農家出身で、生まれた時からリンゴが身近にあ

る生活をしてきました。弘前はリンゴの大産地なのでいろいろなことを新しく吸収していき、これからもリンゴの研究ができることを楽しみに研究に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひします。

Ⅳ けいじばんコーナー

平成21年度 学生・ボランティア活動助成



平成21年度学生ボランティア活動助成の募集について8件の申請があり、下記の団体が承認されました。選考結果の通知は、平成21年6月23日(火)に学長から交付されました。

団体名	申請代表者名
児童文化研究部(KIDS')	木村 恵理(教育学部)
僻地教育研究会	齋藤 有希乃(教育学部)
さくらボランティア	千葉 祐奈(教育学部)
ひまわりサークル	田中美里(医学部保健学科)
SaBoTen(サボテン)	高橋 美佳(教育学部)
環境サークルわどわ	浅沼 慎也(理工学部)
teens & law(青森家庭少年問題研究会)	野中 隆弘(教育学部)
アダプテッドスポーツサークル	佐野 歩美(教育学部)

第60回東北地区大学総合体育大会開催

第60回東北地区大学総合体育大会は、東北地区大学体育連盟加盟の48大学が参加して、6月12日（金）～11月1日（日）の日程で開催されています。

弘前大学では、ソフトテニス（6月19日～23日）が弘前市運動公園テニスコート及び岩木山総合運動公園テニスコートで24大学113名、剣道（9月27日）が青森県武道館で43大学239名が参加して開催されました。

どちらの競技とも、各競技場で熱戦が繰り広げられました。



「学長と新入生の保護者との懇談会」を実施

本学では、学生の保護者への情報提供、連携体制の強化を図ることを目的として、7月4日～7月25日までの間、新入生の保護者を対象とする懇談会を実施しました。

懇談会は、学長が4地区（弘前、札幌、仙台、東京）に出向き、弘前大学の現状、教育体制、就職支援体制及びクラス担任制度・相談コーナー等学生への諸支援体制などについて説明し、4会場で合計189名の出席がありました。

質疑応答では、学生の成績表の通知、就職支援の取組、学生寮についてなど学生生活についての質問・要望等活発な意見交換が行われました。

この懇談会の実施により、保護者の方々の本学に対する理解が深められる

とともに、学外者からの視点で見た弘前大学に対する意見、要望・提案等を

伺うことができ、今後の管理・運営の一助となりました。



よさこいサークル弘前大学生生活協同組合から 物品援助

弘前大学 YOSAKOI サークル hirodai 焔舞神は、課外活動活性化のために弘前大学生生活協同組合から鳴子30個の寄付を頂きました。

寄付を頂いた直後に開催された第10回よさこい津軽(6月28日)では、新しい鳴子と今年購入した今年度購入したよさこい旗とともに熱気あふれる踊りを披露しました。



VI 編集後記

今年は弘前大学創立60周年ということで、いろいろな行事や記念事業などが行われている。「学園だより」もこれにあやかり2回にわたり特集を組むこととなった。正直なところ「なんで60周年(行事や記念事業)なんだろう?」という疑問があった。たぶん、同様に思われた方も多いのではないだろうか?その答えは「人間にたとえると還暦」とのこと、思わず「なるほど」

と納得した。たしかに「こじつけ」にも思えるが、擬人化する事により日本文化の香りや血の通った暖かみも感じる。

さて本号では、60周年における学長や在学生の式典の式辞をはじめ、卒業生のなどいろいろな方々人の声が綴られている。一気に読んでみるとなかなかおもしろい。そう、ちょうどワインを飲んでいるような感じである。例

えていえば、学長の文はオールドビンテージのようで複雑味のある味わいや深さがあり、卒業生の文はまさに飲み頃のパワーと円熟みがあり、在学生の文はニューボのように非常にフレッシュである。

今後、弘前大学が喜寿、米寿、白寿と迎えていった時、はたしてどんな味わいに変化しているのだろうか。

(松)

弘前大学60周年記念グッズも開発しました 弘前大学オリジナルグッズ

弘前大学生協同組合で販売している弘前大学オリジナルグッズは40アイテムを超えています。新しく仲間入りしたもの、高い人気で好調に利用されているものなどを中心に紹介いたしますので、今後ともご利用をよろしくお願い申し上げます。

【定番として高い人気を誇るアイテム】

- 日本酒弘前大学 ￥2000 (1本)
- 弘大アップルケーキ ￥180 (1ヶ)
- 弘大農場製紅玉ジャム ￥500 (1瓶)
- 弘大農場りんご (11月より受付)

【外来者用おみやげで利用の多いもの】

- 徽章入り藍染ハンカチ ￥1050 (1枚)
- ポストカード・絵葉書 ￥100～ (1枚)

【60周年記念グッズ】

- 日本酒弘前大学大吟醸 ￥3200 (1本)
※21年製造分は完売。ありがとうございました。
- りんごキューピーストラップ ￥500 (1本)
- 弘大オリジナルカレー (仮称) ￥未定
※現在開発中で近々デビューの予定です。



秋の生協まつり

11月は恒例の生協まつり企画を開催します。期間中は超お買い得品や抽選くじを用意して、組合員の皆さんに楽しんでいただきます。

●開催日 (予定)

11月9日(火)～14日(金)

※10月に発行される生協まつりチラシで企画内容などご覧下さい。

卒業生フェア

卒業予定の組合員の皆様に、卒業までのいろいろな準備の支援、生協出資金返還手続きなど、この場でまとめてできるよう、フェアを開催いたします。

■開催日 (予定)

11月24日(火)～27日(金)

※10月にチラシ、DMで詳しくご案内いたします。

教職員・院生組合員懇談会を開催いたします。

11-12月で各学部、部署ごとの教職員・院生懇談会を予定しています。

日ごろ生協を利用して感じていること、こうなればもっと利用できるなど、いろいろ生協に対するご意見をいただく場として開催いたします。

10月に学部理事・総代より日時と会場をご案内いたしますので、多くの組合員のご参加をお願い申し上げます。

11月は生協強化月間！

「組合員の、組合員による、
組合員のための生協づくり」
がテーマです。



弘前大学 学園だより Vol.164

2009年9月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。
e-mail: jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp
弘前大学学務部学生課



国立大学法人 弘前大学 「学園だより」編集委員会

委員長

奥野浩子 (教育・学生委員会)

委員

福田健太郎 (人文学部)

杉原かおり (教育学部)

松谷秀哉 (医学研究科)

門前 暁 (保健学研究科)

小松尚夫 (理工学研究科)

藤田 隆 (農学生命科学部)

三浦信義 (学生課)

佐々木忠 (学生課)

印刷：ワタナベサービス株式会社